

行政視察等報告書

令和元年8月5日

長浜市議会議長 松本長治様

長浜市議会議員

西邑 定幸



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和元年度 会派「政友会」行政視察研修
2. 視察期間 令和元年7月22日(月)～7月24日(水)
3. 視察場所及び目的
 - ①青森県上北郡六ヶ所村 「六ヶ所村核燃料サイクル施設の視察研修」
 - ②青森県十和田湖観光交流センター 「観光振興の取組と現状」について
 - ③岩手県北上市 「地域公共交通の取組」について
 - ④宮城県大崎市 「地方自治組織活性化事業交付金と市民協働の取組」について
4. 調査内容・感想等 ※ 長浜市 人口120千人 面積681平方キロメートル

【1】六ヶ所村 核燃料サイクル施設視察研修

ウラン濃縮工場、MOX燃料工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、

高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、再処理工場等、原子燃料の一連の

サイクル施設の視察研修を行なった。

〈 感想 〉

資源小国である日本は、現時点原発への依存は避けて通ることはできない状況

において、納得できる頼もしい誇れる施設であると感じた。

【2】青森県十和田湖における観光振興の取組と現状について視察

十和田湖観光交流センター「ぷらっと」で、現在の観光状況を研修した。

以前は年間200万人の観光客が訪れていたが、今年年間5～6万人とのことで、

訪問当日もかつての賑わいはなく、ホテル・旅館・民宿も多くが閉鎖されており、観光船の会社も2社あったのが1社となってしまったとのこと。

〈 感想 〉

小生が高校生であった約50年前に訪れた当時の面影が無くなっていて、栄枯盛衰の無常を感じた。非常にポテンシャルのある観光資源を持ちながら何故なのか？疑問を感じた。観光施策の取組が不十分であると感じた。

【3】岩手県 北上市 人口 96千人 面積 438km²

最近、東芝メモリーの工場進出があり工業生産高も増え、従来の農業と工業とのバランスが取れ、人口増も期待され活力のある都市と変容してきている。

通年議会：H28年度～ タブレット導入：H30年2月～

◆「地域公共交通の取組」について

国の法律に基づき、平成29年～32年間の公共交通網形成計画を策定し、アクションプログラムで5つの戦略を実施している。

コンパクトシティープラスネットワークの概念を踏襲し、幹線交通はJRと路線バス、拠点間交通は路線バスとコミュニティーバス、地域拠点と各世帯間は乗り合いタクシーを基本としている。特にコミュニティーバスは、毎日運行ではなく週2～3日運行とし1日4便運行としている。運賃も1区間100円とし安価である。

〈 感想 〉

長浜市でも、住民の声を反映した、公共交通網計画を策定しているが、

北上市では、より住民の意見を聞き、きめの細かいアクションプログラムと
なっているように感じた。持続可能な地域の利便性を考えた公共交通として
様々なアイデアを出し、更なる充実が必要であると感じた。

【4】宮城県 大崎市 人口 130 千人 面積 797 km²

◆「地方自治組織活性化事業交付金と市民協働の取組」について

長浜市と同様に合併を境に、行政だけでは対応できない課題が増え、新たな
行政と地域との関係構築が必要となってきた。

現在、7つのまちづくり協議会が設置され、地域の自治やまちづくりが進め
られている。「共にはぐくむ、市民が主役の協働のまちづくり」を施策の柱
とし、組織横断的な体制を取っている。

自治組織への財政支援として、自治組織活性化事業交付金制度を導入して支援
している。

〈 感想 〉

担当者に言わせると、長浜市の取り組みを研修し、モデルとして進めている
とのことであったが、大崎市では、市民との話し合いが出発点であるとの
認識が共有されており、話し合いの中で問題・課題を洗い出し、市民協働の
環境づくりがされていると感じた。長浜市でも謙虚な取組が必要であると
感じた。 以上